

## 第6回「市長と話そうまち育てタウンミーティング」について（全体版）

- 1 日 時 平成27年1月15日（木）午後1時30分～2時30分
- 2 場 所 北上市技術交流センター
- 3 参加者 北上工業クラブ会員企業（子育て中の皆さん）  
岩手東芝エレクトロニクス（株）  
菅原 裕美子さん、五十嵐 幸江さん  
シチズン時計マニュファクチャリング（株）東北北上工場  
千葉 祐子さん、高橋 ひとみさん  
有限会社夢工房 昆野 ゆきえさん
- 4 市出席者 市長、松田教育部長、今野商工部長  
（事務局）及川広聴広報課長、同課 高橋課長補佐、石田主任
- 5 懇談テーマ 1 「子育てで困っていること」  
2 「子育てで行政に望むこと」
- 6 懇談内容

### 市長あいさつ及び自己紹介

市長：北上市は、住みよさランキングで県内5回連続1位を頂いていますが、それは小売店の面積の大きさ、住居の広さ、一人ひとりの所得によるものです。一方で病院や高齢者福祉施設のベッド数は全市の中で最も評価が低いので、皆さんの実感とは異なる部分もあると思います。また、有効求人倍率は2倍に迫っており、人が足りない状況です。今後も持続的に発展していく地方都市のモデルとしてあじさい都市という名前を付けて、人口減少や消滅可能性自治体といった諸問題に対応していきます。特に子育て、医療、福祉などの分野については今までできなかったことをやりたいと思っています。今月あじさい都市推進本部というものを立ち上げ、しっかりと対応していくチャンスとしたいと思います。皆さんの意見もそういう所に反映したいので、忌憚のない意見をよろしくお願いします。

### テーマ懇談「子育てで困っていること」「子育てで行政に望むこと」

菅原さん：これまで5回ほど病後児保育（※注1）を利用する機会がありましたが、風邪の流行の時期は予約がとりづらいです。入社年数的にも責任ある仕事を任されている立場なので、急に休まなければならないのは大変です。病後児保育室はとても良い環境ですが、定員が3人と少ないので増やしてもらえませんか。

松田教育部長：確かに風邪やインフルエンザの流行時期は利用しにくいと思います。現在病後児保育室は1か所ですが、可能であれば増やしていきたいです。

市長：病後児保育室は済生会病院の先生にお願いしていますが、なかなか対応してくれる先生の数足りていません。対応してくれる先生が増えれば増やしたいとは思いますが。予約できなかつたことはありますか？

菅原さん：予約が取れているのは7割くらいと感じています。

市長：これは考えないといけないですね。

**<注1> 病後児保育室**

当市では、病気の回復期にある児童をお預かりする「病後児保育室」を開設しています。保護者が仕事などの都合で保育できない児童を保育士と看護師が保育します。詳しくはこちら <http://www.city.kitakami.iwate.jp/docs/2014052800479/>

菅原さん：私は地元が市外ということもあり、同世代の子どもを持つお母さん達との交流の機会が少ないので、サークルなどに参加したいと思っていますが、広報やホームページのイベントの開催告知などを見ると子育て教室などは平日の昼間が多く、仕事をしていると参加しづらく困っています。

五十嵐さん：私も子育て教室に参加したいと思っても、開催は大体平日なので参加しにくいです。せめて夕方だと助かります。

市長：たしかにそうですね。子育ての団体にもそういった情報を流したいと思えます。

五十嵐さん：娘が来年小学校に入学するのですが、男性の保育士さんがいないので、大人の男性と接する機会が少なく、小学校で男性の先生に接することに不安があります。男性の保育士さんの採用を増やしてもらうことかできませんか？

幼稚園の冬休みは1月近くあるのですが、時間を持て余しています。遊ぶ場所や施設の情報提供をお願いします。

松田教育部長：男性保育士は現在3名。全員保育園で、幼稚園にはおりません。徐々に増やしていきたいと思っていますが、受験者数も少ないのが現状です。

市長：現在の3名を市内の保育園で回すことも考えなければいけないかもしれませんね。幼稚園の長期休暇が長くて困るとのことでしたが、新潟県長岡市では、子ども達が集まることのできる施設を整備しているので、そういった事例を参考に遊び場についても考えてみたいと思います。

松田教育部長：現在、市内には適当な施設がありませんが、例えば、駅前の生涯学習センターにある子育て支援センターや、土日は図書館で読み聞かせのイベントをしているので是非利用していただきたいと思えます。

千葉さん：小学校の統合の話があるので、今後入学にあたって不安を感じています。それと、子連れで病院に行ったときに待ち時間が長いのが困っています。大人でさえ具合が悪い時の待ち時間はつらいので子どもだと尚更です。もうちょっと短くなれば嬉しいです。

松田教育部長：照岡小学校は現在生徒数が100人未満、1年生が10人ちょっとです。照岡小学校、立花小学校、黒岩小学校、及び口内小学校の4校の統合案があり、

地域の方々に説明しているところでした。通学の問題など、さまざまな意見が出ております。どの地区でも共通するのは学校が無くなるのは寂しいということです。一方で複式学級などの問題もあり、子ども達のことを考えると統合の必要性もあるのではないのでしょうか。

市長：統合についてはこの1・2年で方向性が出ます。口内はこのままで行きたいという意見、それ以外の小学校は現在の古い立花小学校でなければ統合してもいいかな、という意見が多いようです。最も問題なのは中学校に入学した時にクラブ活動もできないようでは教育上問題があることです。

そういった地域づくりの観点と教育上の観点の両面から検討する必要があると考えます。

病院の待ち時間については、医師会との懇談会の際に伝えたいと思います。旧北上病院が中部病院に変わった際にシステム化されて早くなりましたので他の診療所でも少しずつでも改善はできるのではないのでしょうか。お話をしたいと思います。

高橋さん：私は会社内の保育所を利用していますが、スペースが狭く、走り回ると他の小さい子ども達に迷惑が掛かるので、春に保育園に入園を検討しました。ところが保育園の2歳児の受入人数が1人で、それを知ったのが申込みの時点で今変更もできず困りました。もう少し早いタイミングで大まかでよいので受入れ可能人数を知らせてもらえると助かります。

松田教育部長：現在は入園希望を出していただき、その中で決めていくのですが、第1・第2希望でない方もいます。どうしても0歳、1歳の園児はそのまま進級していくので定数の空きが出ないと新しくは入れません。

市長：確かに1～2歳児の入園待機が生じていますので、早急に解決しなければいけないと思います。また保育園の受入人数の公表についても早いタイミングで発表していきたいと思います。

松田教育部長：在園児が来年度保育を継続するかを調査してからでないかと受入人数が確定しないため、やり方についても今後検討します。

高橋さん：市役所からは3歳になると枠が広がるので入りやすくなりますと言われましたが、3歳になると幼稚園にも入ることができるので、どちらがよいのか悩んでいます。

昆野さん：現在、娘がNPOのスクールバスを利用して東陵中学校に通っていますが、帰りのバスが1本しかありません。先ほど小学校の統合のお話が出ましたが、学校が遠いと通学が大変です。土日のクラブも頑張ってもらいたいのですが、土日はバスが無いので送迎しなければいけませんし。

市長：現在、福祉有償運送という仕組みがありますが、それだけではこのような状況に対応出来ないなので、地域と中心を結ぶ、または地域と地域を結ぶ新しい交通システムを作る方向で進めています。ただし、時間が掛かるので早急な対応というのは難しいのが現状です。

高橋さん：乳幼児の医療費助成給付申請書（※注2）について、毎月1回病院と薬局

に出さなければならぬのですが、毎月、診察券や保険証などと一緒に出すのはかなり大変です。また申請書をもらいに行くのも大変です。仕事があると火曜日の延長窓口しか行けないので火曜日は残業できません。何とか手続きを簡単にできませんか。

<注2>

国保年金課公費医療係に受給者証の交付申請をし、一定の所得以下であれば認定され受給者証が交付されます。医療機関の受付窓口で受給者証を提示し、医療費助成給付申請書を診療月内に1枚提出します。給付金は、通常、診療月の2～3か月後に保護者に給付されます。

詳しくはコチラ <http://www.city.kitakami.iwate.jp/docs/2014073000032/>

市長：現在の2～3か月後に給付金が支払われるやり方に対し、平成28年度から県内一斉に現物給付（医療機関窓口で自己負担を支払わなくてよい方法）に切り替えるべく検討しています。この方法に切り替われば毎回申請する必要はなくなり、当初手続きすれば、その後は通院の場合月1,500円を超えた窓口負担分は支払わなくてもよくなる予定です。

五十嵐さん：乳幼児の医療費助成は、3歳未満は無料ですが、3歳を境に1,500円掛かるようになりますよね。（※注3）手続きも大変だし1,500円超えそうにないから申請しなくてもいいかなと思うときもありますね。

<注3>

乳幼児に対する医療費給付制度は、全国一高い乳児の死亡率を減少させるため、低所得者の経済的な負担を軽減し生活の安定を図るという福祉的な観点から実施されたものです。特にも発達段階の3歳までは最も医療費がかかることから、子育て家庭の経済的負担の軽減を図るため、窓口負担分の全額を助成しています。

現在、当市で実施している乳幼児の福祉医療費給付制度の対象範囲、受給者負担及び所得の限度額はすべて岩手県の補助基準に基づき実施していることから、受給者が3歳以上の場合、受給者、保護者、配偶者のいずれかが市民税課税の場合、外来1月1レセプト1,500円、入院1月1レセプト5,000円の自己負担としています。

なお、市民税非課税世帯の場合は、受給者負担はありません。

※乳幼児などの医療費助成制度を受けるには、保護者等の所得が限度額未満であることが必要です。被扶養者の人数によって、限度額が異なります。くわしくは、国保年金課公費医療係（電話72-8205）にお問い合わせください。

千葉さん：乳幼児健診についてですが、いつも午後のお昼寝の時間になるのはなぜでしょうか。

市長：詳しい事情は不明ですが、先生の都合（※注4）によるものです。変更はちょっと難しいかもしれません。

<注4>

健診の診察は、病院や市内小児科の医師へ依頼しています。診療との関係で、乳幼児健診に来ていただけるのは午前の場合もありますが、午後が多くなっています。

五十嵐さん：乳幼児健康診査についてですが、3歳6か月の次は就学前の検査まで受診の機会がないのはなぜですか？できればその間も、例えば5歳とかにも健診を受けたいと思うのですが。

松田教育部長：5歳児健診を行っている自治体があるので、そちらの事例を研究しています。（※注5）

<注5>

当市では、母子保健法12条により1歳6か月児及び3歳児の健診を行っているほか同13条により乳児健診を4回と1歳児健診・2歳6か月児歯科健診を行っています。また、多くのお子さんが保育園や幼稚園に在籍し、園での健診を受けています。

5歳児健診は、就学に向けて発達障害の早期発見・早期支援を目的としていますが、当市では、乳幼児健診だけでなく、幼稚園・保育園等での巡回訪問や療育センター事業が充実し、早期支援の体制ができていることから、必要性が低いと考えています。

千葉さん：国見橋には歩道がありません。学生が自転車で走っているのを見ると危ないと感じることがあるのですが今後改修はしないのですか。

市長：残念ですが、予定はありません。私も自転車で走るのですが、怖い思いをすることがあります。広げることは難しいですが、欄干を少し高くすることはできるかもしれません。はっきりとは言えませんが。

菅原さん：通勤の途中、見守り隊の方を見かけるのですが、あれは地区で行っているのですか？それとも市全体で行っているのですか？

松田教育部長：スクールガードということで、小学校単位でボランティアを募って行っています。交通安全だけでなく、子ども達の登下校時の不審者の監視も行っています。また、地区によっては小学校とは別に、区ごとに当番を決めて行っている所もあります。

市長：地域によっては、交通安全協会の方々が横断歩道に立ってくださっています。不審者情報は年数回ありますが、ボランティアの方がいるだけで抑止力になるので、今後も老人クラブなどの方々の協力を頂きながら、将来的には認知症の方の徘徊についても注意して見てもらおうと考えています。

五十嵐さん：夜中に子どもの具合が悪くなった時に中部病院に電話したら、適切な対応方法を指示していただき、おかげで朝まで具合が落ち着きました。消防署でも同様の相談を受け付けてくれるようですが、突然のことでとても不安だったので、大変助かりました。この相談窓口の存在はもっと知られてよいと

思います。

市 長：意外と知られていないのですが中部病院や済生会病院、消防署でも深夜の電話での相談を受け付けてくださいます。その場ですぐ病院に来なさいとか。もっと周知します。ありがとうございました。